



武庫之荘幼稚園では例年、クリスマス会で年長組がページェントを行います。

ページェントとはイエス・キリストの降誕劇のことです。

「なぜ神様はこの世界にイエス様をお与えくださったのか」「なぜお母さんにマリアさんが選ばれたのか」等、子どもたちはお話を聞く中で「本当のクリスマス」の意味を知っていきます。

イエス様のお誕生

今から二千数百年前のお話です。昔ユダヤの人々はとても苦しい毎日を送っていました。

神様の言葉を伝える預言者は、やがて救い主がお生まれになると伝えました。

世界中の人々は救い主の誕生を待っていました。。



ナザレの村にマリアさんという心の優しい女の人が住んでいました。ある日、大天使ガブリエルがマリアの所にやってきて言いました。「おめでとう、マリアさん。神様があなたにかわいい赤ちゃんを下さいます。そのお名前をイエスと名付けなさい。」信仰深く、優しいマリアが救い主イエス様のお母さんに選ばれたのです。マリアはヨセフという男性と結婚する前でしたが、「神様のお言葉通りにしてください。」と大天使のお告げを聞き入れました。また、ヨセフも神の子イエスの父親になるというお告げを信じ、受け入れます。

そして空では大きな星がピカピカと光始めます。それは救い主誕生を知らせる大星だったのです。



ある日、ローマの皇帝がユダヤの民を含めた全領土に、住民登録をするよう命じました。人々は自分の出身地に戻らねばならず、ヨセフも身重のマリアを連れてベツレヘムへと移動します。

その距離は約130キロにも及ぼしました。ベツレヘムに着いた時にはどの宿屋も人々で溢れ、満員でした。

しかし何軒目かの宿屋で「それはお困りでしょう。馬小屋ならば空いていますよ。」と言われ、馬小屋に泊めてもらう事になりました。そしてその夜、イエス様がお生まれになったのです。



そこから少し離れた草原で、羊飼いたちが羊の番をしていました。

この時代の羊飼いは、牧場や家畜小屋を所有しておらず、夜は

野宿で、牧草地を求めて羊の群れを連れて移動していました。

定住地がない為（いわばホームレス）、住民登録の対象外の人々、つまり底辺層の人々だったのです。

けれども主のご降誕は、この世で誰からも顧みられないような存在の羊飼いたちに真っ先に知らされました。

「あっ、大きなお星さまだ。今夜は何かありそうだね。」

そして夜通し羊の番をしていた羊飼いの元に天使がやってきて、神の子イエス様が生まれたことを告げるのです。

「イエス様がお生まれになったのですね。一緒に拝みに行きましょう。」

こうして羊飼いたちは世界で一番最初に救い主の誕生を知り、馬小屋へ向かいました。



遠い東の国では博士たちが大きな星を見つけました。そして新しい王がお生まれになる事を調べたのです。博士たちは星をたよりにラクダに乗ってやってきました。その時、博士たちがイエス様への贈り物として持っていたのが、「王の栄光にふさわしい価値がある黄金」「神と人を繋ぐ礼拝で用いる、神への捧げ物である乳香」「十字架にかけられたイエスに用いる為の没薬」といずれも高価な物で、イエスの生涯に必要になるものでした。これが最初のクリスマスプレゼントでした。

こうして救い主の誕生を知った人々が、イエス様を拝みに馬小屋へと集まりました。

もしイエス様が宿屋の客間にいたら、突然訪ねてきた羊飼いたちの面会は叶わなかっただでしょう。救い主と言う尊い方でありながら、イエスは飼い葉だけに寝かされました。それは、社会の底辺にいる人々と同じ低い立場に身を置いて下さる方である事を意味します。傍目には粗末な飼い葉だけのゆりかごであっても、そこには神様の御業が確かに働いていたのです。

